

翠風園 ひかり通信

第12号



発行月： 平成30年7月
制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会
 ディサービスセンター 翠風園
 ヘルパーステーション 翠風園
 グループホーム 翠風園
 居宅介護支援事業所 翠風園
 理事長 野水 清志

所在地： 〒950-1236
 新潟市南区高井東2丁目13番33号
連絡先： 025-362-7600
ホームページ： <http://www.suifuuen.jp/>



編集部より



早いもので、社会福祉法人正瑛会が開設して十六年目となりました。これもひとえに地域の皆様、利用者様、関係者の皆様のお蔭でございます。本当に有り難うございます。

さて、この度、ひかり通信 第十二号を発行する運びとなりました。

一昨年、正瑛会では、正瑛会開設準備から長年に渡り尽力されました、宇都宮施設長が退任し、寺崎施設長が就任致しました。また、ヘルパーステーションの管理者も交代致しましたので、ご挨拶をさせて戴きます。宜しくお願い致します。

今回の表紙の写真は、園庭の桜です。開設時に植えられた小さな桜の木が、一年一年と成長し、今では見上げる位の大きさになりました。

桜の時期になりますと、利用者様は、園庭の桜をご覧になって、「今年も綺麗に咲いて良かったね。有り難う」と、喜んで愛でて下さいます。私達職員も、この桜の木と共に、大自然の恵みを戴き、利用者様始め多くの皆様から成長を願って戴いております事に感謝し、これから日々励んで参りたいと思います。



前任 施設長ご挨拶

宇都宮 秀子



私は、平成二十八年の十二月三十一日をもって翠風園の施設長を退任致しました。そして、新たに寺崎正則さんが施設長に就任致しました。

当初、正瑛会設立準備室で開設のお手伝いをしていた私を、施設長という大事な役目に就けて下さいました、理事長始め役員の皆様、本当に有り難うございます。

施設長としての自分を振り返ると、福祉の仕事は全く初めての、何とも頼りない拙い人間でした。そんな私も、理事長や諸先輩のご指導を戴きながら、今日まで続けてくる事が出来ました。私の胸にあったのは、理事長がお父様の遺産を全てつぎ込んで、山口評議員の提唱される福祉の志を実現する為に、建てて下さったこの施設を、現場で成功させ存続させるのは私の責任であり、私の使命なのだとの想いでした。

だからそのご恩に報いる為に、どんな事からも逃げまいと心に誓いましたが、長い年月の中で時折、心の折れそうな事もありました。然し「私は逃げない！」という想いに支えられ、又、自分に越えられない問題は起こらないという信念の元、何とか今日まで続けさせて戴き、寺崎施設長にバトンを渡す事が出来ました。

スピリチュアル・ケア（霊的介護）という目的を掲げ、本当に試行錯誤と手探りで歩んで来た年月でした。当初、全く耳新しかったスピリチュア

ルケアという言葉も、今では介護の考え方の中心となりつつあり、様々な研修でも普通に語られるようになってきました。当初は宗教的だとか、様々な批判もありましたが、私は心揺らがせる事なく、職員の皆さんとこの道を歩めた事を誇りに思います。正瑛会の介護は、相手の表面的な態度に惑わされず、その方の中にいらっしゃる霊に向かって、礼儀と真心を尽くす介護です。職員の皆さんは、正瑛会の空間の中で、先輩からその姿を学び、今では、自然のうちにそれをやっている姿を頼もしく思っています。

職員の真心が届いている証拠に、利用者様やご家族が翠風園に寄せて下さる、厚い信頼があります。その姿勢をこれからも貫き、寺崎施設長の元で益々進化・成長させていけるよう、心から願っています。

私も施設長の職は退任致しましたが、今後は居宅介護支援事業所の管理者として、地域の皆様へご恩返しをして参りたいと思います。そして生涯現役で、寺崎施設長の後押しをして参りたいと思います。

施設長在任中、地域の皆様、同業の皆様には大変お世話になりました。

長きに渡り、皆様からの応援、心から感謝致します。本当に有り難うございました。

新任 施設長ご挨拶

寺崎 正則



日頃から正瑛会の法人運営に多大なるご理解とご協力を戴いております地域の皆様、又、翠風園をご利用下さっております皆様方に心より感謝を申し上げます。いつも本当に有難うございます。

さて、昨年の一月から施設長交代となりまして、早いもので一年が経ちました。翠風園の開設から今日まで本当に様々な事がありました。施設長一年目の昨年ほど、驚きと喜びに絶えなかった一年はありませんでした。しかし、その様な目まぐるしい日々だったからこそ、日頃、当たり前と思っ
て感謝すらして来なかった周囲の方々のお蔭様に、これも「ありがとう」、あれも「ありがとう」と、たくさんの「ありがとう」を感じながら一年を過ごす事が出来ました。

その様な中、当法人の職員の教育を担当して戴いている山口評議員から、昨年、とても大切な事を教えて戴きました。それは、「身の回りに起こる全ての出来事は、全て自分自身の心の内側が、そのまま現れている」というお話でした。つまり、人の事を批判したり、攻撃する様な人は、心の中が常に戦闘態勢ですから、その人の周りは、争いの絶えない状況になるのだそうです。

ですから、人ではなく自分自身の心を常に見つめなければならぬというお話でした。

そこで、人を批判しない様に、自分の心の内側を平和で穏やかに保つ様にと心掛けておりましたら、身近な人から順番に、少しずつ私の身の回りが、穏やかで平和な状態へと変わって行くのが分かりました。山口評議員がお話し下さった事は、こういう事なのかと大納得でした。

それからというもの、いつも私は自分の心の中を平和に保つ様に努力をしているのですが、これが、なかなか難しいのです。ほんの些細な言葉の遣り取りでも心の中が乱れてしまいますので、これでは、協調と調和に満ちた翠風園を築く事など出来ません。

ですから、施設長二年目の今年、先ずは自分自身の心の内側が常に平和である様に努め、何事も「ありがとう」と感謝の気持ちでさせて戴くと決めました。

そして、ご利用下さいます皆様が心癒され、充実した日々をお過ごし戴けます様に職員皆で真心を尽くして参りますので、どうか今後とも変わらぬご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

ヘルパー ステーション

ご挨拶

佐瀬 友子



昨年七月一日より、ヘルパーステーションの管理者兼サービス提供責任者に着任致しました、佐瀬友子と申します。

翠風園の開設時から勤務しており、翠風園が大好きで、毎日楽しく仕事をさせて戴いています。ヘルパーステーション翠風園は、今年の三月で満十五年を迎えました。沢山の皆様からの支えがありましたお陰様と心より感謝申し上げます。

前管理者をされていた宇都宮所長が、新しく居宅介護支援事業所を立ち上げる事になり、私がこの職を引き継ぐ事となりました。

管理者としてスタートして間もなく、七月五日事業所始まって以来、初めて市の実地指導が入りました。当日は、前管理者の宇都宮所長やサービス提供責任者の南先輩の立ち会いの元、無事終える事が出来ました。

又、利用者様より苦情や相談、緊急事態や事故発生時は、速やかに誠心誠意対応する事等、宇都宮所長、南先輩より、責任者としての心構えを教えて戴き、管理者の仕事が始まり、様々問題、課題はありますが、周りの皆様にご協力戴きながら、何とか乗り越えて来た数ヶ月間となりました。

今迄、ヘルパーとして安心して訪問に携わらせて戴いてきましたが、南先輩、宇都宮所長から、このような大変な責任を担って戴いてきたお蔭で、私達は仕事をする事が出来たのだと思うと、感謝せずにはいられませんでした。

まだまだ不慣れではありますが、利用者の皆様が幸せな日々を過ごして戴けますよう、ヘルパー職員一同、一丸となって励んで参りますので、今後共、どうぞ宜しくお願い致します。



皆様のご自宅に感謝の気持ちで訪問させて戴きます。

居宅介護支援事業所を

開設致しました

管理者兼介護支援専門員 宇都宮秀子
介護支援専門員 長谷川満

昨年、七月一日より、居宅介護支援事業所を開設致しました。

居宅介護支援事業所とは、介護を受ける方、又は介護をするご家族が安心した生活を送ることが出来るよう支援する為の、県の指定を受けた介護支援専門員（ケアマネージャー）がいる、専門的な相談窓口です。

業務内容としては、要介護認定の申請の代行や居宅サービス計画書の作成、介護方法、福祉用具についてのご提案や、介護保険で受けられる居宅介護・支援サービスの紹介や調整・手続き、費用の計算や請求などをケアマネージャーが代行で行います。

正瑛会にとりましては、十数年振りの事業所の再開となりますが、従事者の私達は初めて携わる分野ですので、ゼロからのスタートとなりました。

まず、開設にあたりましては、南区役所福祉課の皆様にご指導戴き、誠に有り難うございました。又、開設してからも、包括支援センターの皆様を始め、多くのケアマネージャーの皆様に、毎日のようにご指導ご鞭撻戴き、心より感謝申し上げます。

南区は他職種連携が活発で、多くの研修や勉強会が行われています。今は、二人で出来るだけ研修や勉強会に参加し、知識の習得と共に、皆様との繋がりを深めさせて戴きたいと思っております。

多くの皆様のご協力とご理解を戴きまして、スタートしましたが、毎日新しい発見と気付きがあり、驚きと感動を持って取り組ませて戴いております。私達は、開設する際、一つの目標を立てました。それは、「地域の皆様へのご恩返し」です。これまで正瑛会は、長年に渡り、利用者様、地域の皆様、関係者の皆様に育てて戴いて参りました。この感謝の想いを持って、地域の皆様へご恩返しさせて頂けますよう努めて参ります。

いざ、ケアマネージャーという業務に携わってみますと、その利用者様の家族構成、今に至った背景など可能な限りの情報をお聞きする事になります。又、ご家族内の問題もお聞きする事があり、微力ながらご本人とご家族の応援団になりたいと張り切っております。

時には、ご紹介戴いたばかりで介護認定の結果が出ないうちに亡くなられる方もいらっしゃると思います。

尊い御縁を戴いたお一人おひとりに、誠心誠意対応させて頂き、信頼して戴けるケアマネージャーを目指して参りたいと思います。

皆様、どうぞ宜しくお願い致します。



真心を込めて対応させて頂きます。宜しくお願いします！

生命を頂く事への

感謝祭



平成二十九年八月一日から七日にかけて、【生命を頂く事への感謝祭】という行事を行いました。昨年は、全国各地で、地震や台風、大雨によって多くの尊い命が失われ、また、作物も多大な被害に見舞われました。これらの状況から、私達人間は作物や魚、豚、鶏といった多くの動植物の生命を頂いて生かされているのだと感じました。戦中戦後を体験された利用者の皆様は、日頃から生命を頂くという事に深い感謝の想いを持って過ごしていらっしやいます。利用者様の体験談を伺いながら、共に職員も「食べる」という意味、「生命を頂く」事の有り難さをテーマに考えました。初めに、利用者様の感謝の言葉を紹介させていただきます。

・デイサービスセンター 百五歳の男性利用者様

この歳まで生きて来て思う事は、他の生命を頂いて来たお蔭で、今を生きられるという事です。お蔭様で、今も毎日頂いて、元気でいます。

・デイサービスセンター 九十八歳の女性利用者様

ずっと農業を営んで来ましたが、実りのある年もない年も、色々体験して、実りのある年はすごく嬉しかったと覚えています。生命を頂ける事は、有り難いです。

・デイサービスセンター 八十四歳の女性利用者様

食べられる物は何でも頂きました。生命を繋ぐ為に食べられるという事は、幸せなのだと思います。





・**デイサービスセンター** 九十四歳の女性利用者様
人が生きて行く為には、他の生命をもらうという事が必要です。食べ物として私の一部になってくれました。随分長生きして来ましたが、それも食べ物のお蔭だと思って感謝しています。

・**デイサービスセンター** 九十五歳の女性利用者様
美味しく物が食べられる事は、幸せだと思います。翠風園の食事私も私にぴったりです。美味しいご飯と、私の為に生命を下さる動植物達に感謝をします。有り難うございました。

・**デイサービスセンター** 八十二歳の女性利用者様
私は、死ぬまで現役で働くつもりですが、その為には、沢山食べて元気が必要です。その元気を頂ける事に感謝します。有り難い話です。

・**グループホーム** 九十三歳の男性利用者様
戦争を体験し、命の尊さ、食べられる事の有り難さが身に染みています。過食を慎み、感謝して頂いていきます。

・**グループホーム** 七十三歳の女性利用者様
病気をした時、食べ物が生きる力をくれました。「いただきます」「ごちそうさまです」と感謝して頂きます。



次に、感謝祭で上映しました、ナレーションの言葉をご紹介します。

今回は、行事担当の小林清勝さんが作成しました。

元々、農家に生まれ育った環境から、幼い頃から食物の大切さは教わってきたそうですが、作成にあたり、まず本やインターネットでも色々調べてみたそうです。

その後、先輩の皆さんから修正や加筆をして戴く過程で、命の循環について深く学ぶ事が出来、とても勉強になったと言われていました。

そして、この感謝祭で教わった事を、幼い我が子にも伝えて行きますと、力強く話して下さいました。



【生命を頂く事への感謝祭】

今年も、全国各地で、地震や台風、大雨による河川の氾濫、土砂崩れ、浸水が起きています。

ここ、私達の住む白根の地も

信濃川(しなのがわ)や、中ノ口川の水位が氾濫注意水位にまで達し、注意喚起がありました。

増水する川を気にしながらの生活を余儀なくされました。

いつもは静かな川も、自然災害が起こりますと風景が一変してしまいます。私達は、この自然と一体となって生かされていることを改めて感じました。

此の度の大雨により、多くの尊い命が失われました。

地震や災害により人の命が失われますと、

私達は心が痛み自然に対して恨みを抱いたりしますが、

よくよく考えてみますと、私達人間は、

野菜、果物、木の実や、魚・豚や、鳥といった

動植物の命を頂いて、こうして生きています。

これまで沢山の命を頂いて来た事を、

あまり意識して生活をしていなかったように思います。





尊い命は人間だけではありません。
食べ物を頂く時、そこに尊い命があった事を常に忘れずに、
その命に対して感謝の想いを以て
「天地の恵みに感謝し、貴方方の命を頂かせて戴きます。
有り難うございます」と、
私達の命を繋いで戴いている事への感謝を込めて、
言葉に出していきたいと思います。
この、食べ物が私達のこの身体を作り、エネルギーとなって、
この身体に姿を変えて私達の身体の中で生き続けています。
そして、この身体の内から私達を精一杯応援してくれています。
「一つの命が他の命の中で生きる」この命の循環に対し、
今、私達人間が出来る最高の恩返しは何でしょうか？
それは、沢山の生き物達からの命のバトンを託された私達が、
この自分自身の命を精一杯生きる事、
喜びに満ちた人生を輝きに満ちて過ごす事。
それが、きっと私達と共に生きている沢山の命が一番喜ぶ事だと思うのです。
今日の感謝祭の締めくくりに、この翠風園にお越しの皆様とご一緒に、
今日まで、私達の命を育んで下さった沢山の命に
改めて、感謝をしたいと思います。



次に、職員が考えました【生命を頂く事への感謝】の文章を紹介したいと思います。

生命を頂く事への感謝

事務職員 堀川倫子

私が今生きてこの肉体を維持し、毎日を過ごす事が出来ますのは、母なる地球様の上で、空気や水を始め様々な恩恵を戴いているからに他なりません。この度、生命を頂く事への感謝祭を行えます事に心より感謝致します。こうして改めて、自分がどれだけの恩恵の中で生きているのかを意識して考えなければ、毎日の生活に埋没して感謝をせず当たり前で過ごす日もありました。

私は、料理屋を営む両親の元に生まれました。沢山の生命を調理し、お客様に召し上がって戴く商売です。今我が身を振り返りますと、実家に居た頃、私は、野菜、魚、肉、米を始めとする食材への感謝、又、その食材を育てるなど係わられる方々への感謝をした事があっただろうか。そして、感謝の想いで食事を頂いていたのだろうか、特に、多くの生命を使わせて戴き生業としている家の娘として、とても恥ずかしい想いがしました。そして申し訳なく思いました。

翠風園では、利用者の多くの皆様が農業に携わったり、お花を栽培なさったりされています。これまでの感謝祭におきましても、皆様の大自然への深い感謝の想い、お言葉に、真のお心を感じました。それは、ご自分が大自然と共に日々を過ごされ体験され掴まれた尊いお心だと思いました。



私は、自分の感謝の足りなさを省みて、人生の先輩に本物の感謝を教わる有り難さを感じています。そして、日々身の回りの事を見逃さず多くの方から、物から、自然から習って生きて行きたいと思えます。

私は、娘達と食事をする際に、感謝して頂く事の中に食べ方もあると伝えていきます。箸の持ち方、噛み方、姿勢など食事の仕方を正しくする事も頂く食材への礼儀であり、感謝の表れだと思うのです。私は、恥ずかしながら高校生の頃まで正しく箸が持てず、食べ方も綺麗でなく、注意をして戴いた事がありました。食事の大切さも分らず感謝も無く過ごしていたのだと思います。今、気付いて娘達に伝える事が出来て、心から有り難いと思えます。教えて下さった先輩方に感謝です。

又、料理をする時も、一つ一つの食材の本質を見てきちんと向き合い丁寧に調理する事も食材への感謝に繋がると思い、心して料理をしたいと思えます。

私は、これから多くの生命を頂く事への感謝を具現化する為に、皆様に習い、学び、自分を成長させる事で、頂いた生命を決して無駄にする事の無い、喜んで貰える様な生き方をして行きます。



心に残った出来事

今回は、ボランティアに来て下さった方からのお手紙を紹介させて戴きます。夏休みを利用して来て下さり、最初はとても緊張した様子でしたが、利用者様が大歓迎して下さい、笑顔いっぱいの日となりました。後日、お手紙が送られて来て、とても素敵な文面に感激しましたので、是非紹介させて戴きたいと思います。

翠風園の皆様への御礼

高校三年生

川俣晃太

この度は、一日ボランティアをさせて戴き、有り難うございました。最初は、緊張して利用者の方とどう接すれば良いか分かりませんでした。しかし、利用者の方が優しく話しかけて下さったり、お茶を配った時にいつも笑顔で「ありがとうございます」と言って下さったお蔭で、気持ち良くお手伝いすることが出来ました。

また、「生命を頂く事への感謝祭」では、利用者様の意識の転換となるだけではなく、食べる物が満足に無かった時代の話を聞くことで、好きな物を食べられる今がどれだけ幸せな事か気付く事が出来、そういった時代を乗り越えて日本を立て直して下さった今のお年寄りの方々にも感謝を忘れてはならないと感じました。

私の方こそ大きなことに気が付く事が出来ました。一日介護の現場を見て、皆さんが利用者の方と笑顔で楽しそうに接しておられたのが印象的でした。介護施設に入る時、「人に世話をされるのは嫌だ」といった理由で入ったがらない人もいると聞いた事があります。

しかし、翠風園の利用者の方が「ここに来る前、いくつか施設を見て周ったけれど、この職員の対応が一番良かった。私はここで死にたい」と言っておられるのを聞き、一人ひとりの利用者様に対して一緒に笑ったり、楽しんだりして、ただ介護をするだけでなく、心を支えて利用者様との信頼関係を築いていらっしゃる事が分かりました。

細かく丁寧にご指導下さった先輩の皆様、有り難うございました。これから将来、社会人になった時の仕事に対する基本姿勢として皆様のお姿を見習わせて戴きます。大変有り難うございました。



百歳おめでとうひげいじれこまね



前号の第十一号で、九十九歳を迎えられたグループホームの利用者様をご紹介致しました。すると、大きな反響を戴き、読んで下さる皆様から、「感激しました」「生き方のお手本にさせて戴きます」「百歳になられたら、是非また掲載して下さい」とお言葉が寄せられました。

昨年、渋川キミエ様、山田希美江様、お二人が百歳を迎えられました。本当におめでとうございました。心よりお祝い申し上げます。

九月に、新潟市南区長の渡辺稔様にご来園下さり、内閣総理大臣、新潟県知事、新潟市長からの表彰状を代読して下さいました。

当日は、ご家族、職員、利用者の皆様と共にお祝いをさせて戴き、渋川様、山田様もとても喜んでおられ、感動と笑顔溢れる表彰式となりました。

また、お祝いとして、職員の小林令子さんが、三味線を披露致しました。



渋川キミエ様、おめでとうございます。



山田希美江様、おめでとうございます。

